

第3回クロマツシンポジウム記録

－主催者あいさつ－

2006. 11. 11 酒田市総合文化センター

司会 庄内海岸のクロマツ林をたたえる会事務局長 高橋弘哉

こんにちは。今日は大変あいにくの天気予報でしたけれども、現在のところ小雨状態を保っているようです。今年第3回を迎えましたクロマツシンポジウムですけれども、いろいろな事情で準備が遅れまして、正直なところ、どれだけの皆さんがおいでいただけるのか心配していたところ、このように、程よい空間を残してご来場いただきましたこと、ほっとしております。

司会を務めます事務局長の高橋弘哉と申します。どうぞよろしく申し上げます。それでは、主催者を代表して開会のあいさつを当会理事長の砂山 弘氏から申し上げます。

主催者挨拶 庄内海岸のクロマツ林をたたえる会理事長 砂山 弘

このように多数おいでいただき感謝申し上げます。

このシンポジウムは、今年で第3回を迎えますが、なぜか毎回天气が悪い。今日はまあまあ天気ですが、実は私昨夜お願いしたのです。誰にお願いしたのかというと、あとで「庄内出羽人形芝居」に出てくる「クロマツ大明神」にです。

私どもの会は「NPO庄内海岸のクロマツ林をたたえる会」、略して「クロマツの会」と申します。クロマツの会は、「出羽庄内公益の森づくりを考える会」という大きな輪の一環として活動しています。

南は湯野浜から北は吹浦まで、たくさんの小さい輪があり、それらが結びあって33kmのクロマツ林を守っています。その小さい輪がまとまるとどうなるかと申しますと、出羽庄内公益の森づくりを考える会事務局の梅津さんに「今年1年でどれだけの人がクロマツ林の整備に参加したのか」と聞きましたところ約2000人だそうです。2000人という数字は、我々が平成13年に会を立ち上げたときには考えられない数です。この2000人のうち、7、8割は、これから紹介します小、中学校、高等学校の生徒さん、学生さんで、こういう若い方がクロマツ林に入ったということ、これほど心強いことはないです。

これは、各地域の学校やPTA、地域の方々、あるいは浜中では老人クラブの方も参加され、さらに、これを支える家族や関係者の方々の賛同があるわけです。

会を立ち上げて5年になりますが、今日来場なさっている方をはじめ、多くの方々が、クロマツ林をかけがえのない遺産であるということ認識していることの表れであり、大変心強いことであり、感謝申し上げます。

今回のシンポジウムは、第1部は活動報告で、酒田市立第一中学校、出羽庄内森林組合が報告します。出羽庄内森林組合は、事務所は鶴岡市の水沢にあります。出羽庄内の名を冠し、クロマツや当会とも関わりが深くことから、今回お話しをいただくものです。

第2部の敷田麻実美先生の講演は、「クロマツ林が人を育てる、地域を育てる」という視点からお話いただけるということで、庄内のクロマツ林保全活動を再認識するきっかけになればと期待して



おります。そして、第3部の庄内出羽人形芝居による庄内クロマツ物語は、今回初公開です。その中に松五郎・とん兵エ・クロマツ大明神が登場します。

9月に出羽庄内公益の森整備事業の、「庄内砂丘歴史探訪」を行いました。例えば、東北エプソンに行く農道の傍にある石碑にも、多くの地元の方の名前が記されていました。植林の功労者は本間光丘、佐藤藤蔵等が有名ですが、松五郎・とん兵エのような無名の先人も多くいたわけです。

今日は、いつもいらっしやっている山形大学中島先生は山口に、万里の松原に親しむ会の三沢会長は静岡にいます。なぜかと申しますと、クロマツ林の保全活動について講演してほしいとの依頼されたわけです。

ところで、日本緑化センターでは今年から「日本の松原再生事業」を立上げ、松原再生のモデル地域として、秋田県の「風の松原」や静岡県の「三保の松原」が手を挙げる中、庄内海岸のクロマツ林が、第1回の指定を受けました。このことは、本当に庄内海岸のクロマツ林は全国区だということです。また最近、韓国など海外からの視察や取材も増え、庄内のクロマツ林は国際的に注目されてきているといえます。

そういうことで指定を受けたことを大変誇りに思うと同時に、今後とも皆さんにクロマツ林の理解者、支援者になっていただいて、遺産を守っていきたいと思いますので、今後とも御協力をお願いしまして、御礼に変えたいと思います。ほんとにどうもありがとうございました。

祝電 衆議院議員 加藤紘一

「第3回クロマツ・シンポジウム開催おめでとうございます。クロマツ林に学び、クロマツ林を理解し、守り育て未来に繋げる取り組みは、とても重要で意義のあることです。植林の歴史と先人の偉業を讃えるDVDの製作、児童の皆さんの活動紹介など、このシンポジウムが公益の森づくりへの大きなステップになることを期待しています。主催者はじめご活躍のみなさんの熱く深い思いと日々の活動に敬意を表し、更なるご活躍を期待します。」